2006 年 前期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は 2005 年 4 月に国立大学法人としてはじめての会計専門職大学院として開設された．本大学院の目的は，グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し，将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである . この目的を達成していくために第一義的に重要なことは，会計大学院における教育であり，私たちは，社会が職業会計人に求める能力を把握し，これを学生への教育へと反映し，同時に，現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら，より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている．私たちは，会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくための 1 つの手段として，毎セメスター終了後にカリキュラムと当該セメスターに開講された科目に関するアンケートを実施することとした．

このアンケート調査報告書は, 在学生が私たち教員に対して発信したメッセージに対する回答である．この調査報告書を通じて，学生諸君が発したメッセージに私たちがどのような形で応えようとしているのか，私たちが今後会計大学院の教育をどのような方向へ進めていきたいと考えているのか，を学生諸君に理解して頂きたいと考えている．

この調査報告書は，会計大学院のホームページを通じて社会に対しても公開する．その意図は，東北大学会計大学院への入学希望者や将来私たちが教育した学生を受け入れていただく監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある．私たち教員は，この調査報告書の公開により，東北大学会計大学院へ関心が高まり，本大学院出身の学生が高度な分析能力を持つ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している．

今回のアンケート調査報告書は，2006 年度前期終了後に実施されたアンケートを集計したものであり，会計大学院にとって 3 回目のアンケート報告書になる．私たちは前回のアンケート結果との比較を行いながら，今後私たちが改善すべき点を見いだし，学生に質の高い教育サービスを提供していきたいと考えている．

2006 年 11 月 30 日

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは，会計大学院の講義において平成 18 年 7 月 3 日より受講者に配布された以下の 2 種類のアンケートである．

①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」（巻末「付録 1」参照）

②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末「付録 2」参照）

これらのアンケートは講義中に配布され，平成 18 年 7 月 10 日から 7 月 14 日の間に経済学研究科事務室前に回収箱を設置して回収した（一部の講義では講義中に回収を行っている）．

両アンケートともに無記名であり，①は 1 学生につき 1 回限りの回答とした．②は，受講生が 5 人以上であるすべての講義について実施し（講義担当教員の希望により受講生が 5 名未満の講義についてもアンケートを実施している講義も一部存在する），学生は受講している講義毎に回答を行っている．

本報告では，最初に①のアンケート結果を集計し，本会計大学院の教育システム全般に関する分析を行い，問題点を明らかにし，今後の対応について述べる．次に，②のアンケート結果を集計し，今セメスターに開講された科目について，その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い，その問題点を明らかにし，今後の対応を明らかにする．

本報告では，アンケートにより得られたデータを可能な限り数量的・客観的に分析したいと考えている．そこで，①のアンケートにおける自由記述欄の内容については，具体的な内容を記述せず，次年度以降にカリキュラム編成を行う際の参考とし，会計大学院の教育にとり重要と考えられる意見に対してのみ若干のコメントを行いたい．また，②における科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目 17 の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は，担当教員に直接報告し，次年度以降の講義の参考として頂きたいと考えている．

3.「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」に関する分析

3．1．アンケートの実施状況

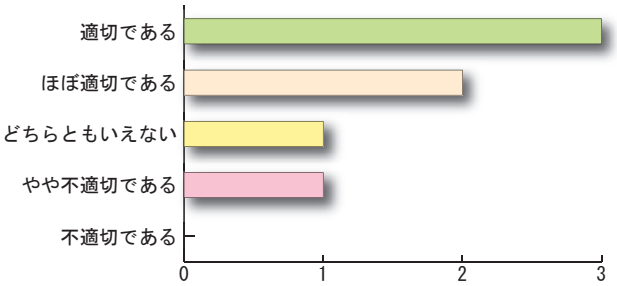
このアンケートは，2006 年度前期に開講された講義を対象に配布された．回答者は 7 名（すべて会計大学院の学生）と非常に少ないために，ここでの分析から得られる結果は幾分限定的といえるが，2005 年度前期・後期のデータとの比較を行うことにより各質問項目の趨勢を分析していく．

3．2．集計結果・分析・今後の対応

質問項目 2：基礎，展開，実践・応用の科目配置は適切だと思いますか．

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
適切である	6.67%	11.11%	42.86%
ほぼ適切である	40.00%	11.11%	28.57%
どちらともいえない	20.00%	44.44%	14.29%
やや不適切である	13.33%	0.00%	14.29%
不適切である	20.00%	33.33%	0.00%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．今回のアンケートでは，アンケート用紙とともに科目の分類（基礎，展開，実践・応用）を示す資料（巻末「付録 3」参照）を配付し，さらに，アンケート用紙の中で，基礎，展開，実践・応用に関する説明を行った（巻末「付録 1・2」参照）．このため，今回のアンケートはこれまでのアンケートと比較して，受講者は科目の分類（基礎，展開，実践・応用）の意味を理解した上で回答していると考えられる．結果として「不適切である」が 0% となり，「適切である」が 43%，「ほぼ適切である」が 29% となった．これは，サンプル数は少ないものの，学生が基礎，展開，実践・応用の科目配置について満足しているものと考えられる．

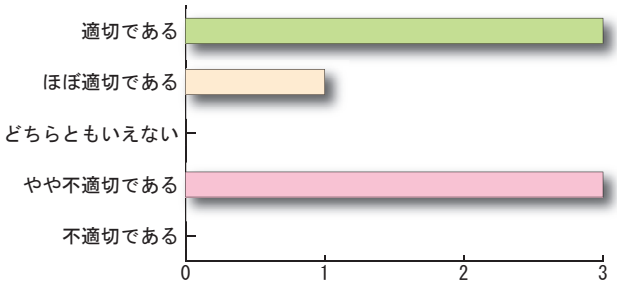
今後の対応

今回のアンケートでは，科目の分類（基礎，展開，実践･応用）を示す資料を配付し，さらに，アンケート用紙の中で，基礎，展開，実践・応用に関する説明を行った．今回の結果は，アンケートを行う際，学生が質問の意味を理解できるような資料の提供が重要であることを示している．次回以降のアンケートにおいても，この質問項目に関連する適切な資料を提供し，多くの学生が本会計大学院の科目配置に関して満足しているかどうかを検証していきたいと考えている．

質問項目 3：セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか．

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
適切である	6.67%	0.00%	42.86%
ほぼ適切である	13.33%	33.33%	14.29%
どちらともいえない	13.33%	11.11%	0.00%
やや不適切である	26.67%	33.33%	42.86%
不適切である	40.00%	22.22%	0.00%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．前回の結果と比較すると，「適切である」が 43% へと大幅に増加したものの，一方で，「やや不適切」が 43% へ増加している．ただし，「不適切である」が 0% へと減少している．

今年度は，学生からの意見を考慮し，前期に同時開講されていた簿記 1・2 を，簿記 1 を前期開講，簿記 2 を後期開講とした．今回，「適切である」のポイントが増加し，「不適切である」のポイントが減少した理由の 1 つとしてこのような変更を考えることができるであろう．

今後の対応

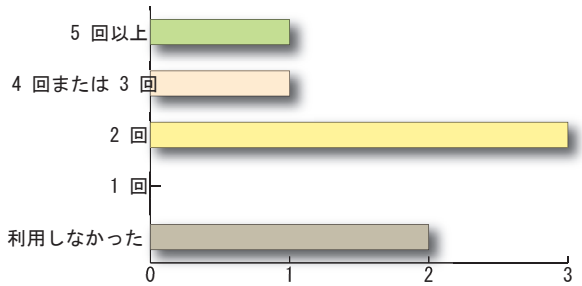
今回の結果は，科目の開講時期の変更が有効である可能性を示唆しているが，限られたサンプルから得られた結果であるため，このような入れ替えが受講者の不満を本当に解消しているか判断を行うことは難しい．今後とも，学生の希望を考慮しながら，セメスター間の科目配置を考えていきたい．

今回のアンケートの結果の特徴として，「適切である」のポイントは増加したが，同時に「やや不適切である」のポイントも増加しているという点をあげることができる．この点については，今後その原因を探っていきたいと考えている．

質問項目 4：オフィスアワーを利用しましたか．教員に履修相談・質問等を行った回数を書いてください．

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
5 回以上	13.33%	33.33%	14.29%
4 回または 3 回	6.67%	11.11%	14.29%
2 回	33.33%	11.11%	42.86%
1 回	26.67%	22.22%	0.00%
利用しなかった	20.00%	22.22%	28.57%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．過去 2 回の結果と比較してみると，2 回以上利用した学生の数・ポイントに大きな変化は見られない．このため，前回のアンケートで指摘したように，オフィスアワーの利用に関して二極分化が生じているものと考えることができる．

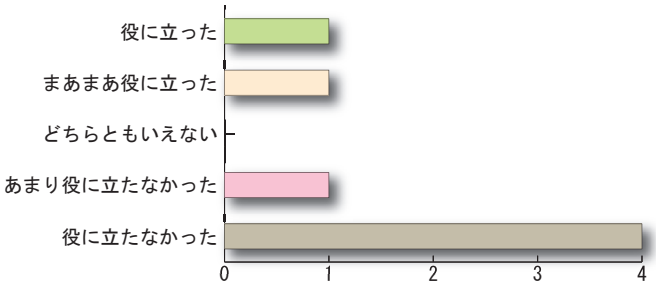
今後の対応

前回と同様に，オフィスアワー利用回数の少ないことが，学生自身にとりわけ大きな問題がないからなのか，オフィスアワー自体が必要とされていないのか，学生を受け入れる教員の側に問題があるのか，その明確な理由を得ていない．セメスター開始時に行われる履修相談においてもこの点に関する意見を得ることはできなかった．今後とも引き続き，履修相談等を通じて，オフィスアワーに関する学生の意見を聴取し，オフィスアワーの利用について考えていきたい．

質問項目 5：セメスター開始時に行われる履修指導は，学習計画を立てる上で役に立ちましたか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
役に立った	0.00%	11.11%	14.29%
まあまあ役に立った	13.33%	22.22%	14.29%
どちらともいえない	20.00%	11.11%	0.00%
あまり役に立たなかった	40.00%	22.22%	14.29%
役に立たなかった	26.67%	33.33%	57.14%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．今回の特徴的な結果は，「役に立たなかった」が 57% とこれまでと比べて大きく増加している点である．サンプル数も少ないため，これが一般的な傾向なのか，単にサンプル数の問題かを判別することは難しい.

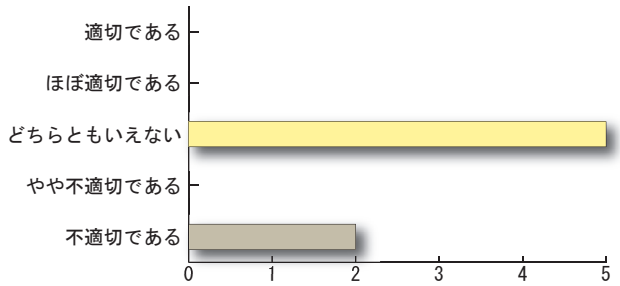
今後の対応

前回の報告でもコメントしたように，多くの教員にとって本会計大学院で行われている形で履修指導を行うのは初めての経験であったが，本会計大学院も開学して 1 年経過し，履修指導のノウハウも蓄積されてきたと考えられる．このようなノウハウを整理しながら，現時点でもう一度，学生がどのような履修指導を求めているのかを再検討する必要があるだろう．今後，履修指導を通じて情報を入手し検討していきたい.

質問項目 6：本大学院では GPA による成績評価を用いていますが，GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
適切である	0.00%	0.00%	0.00%
ほぼ適切である	13.33%	33.33%	0.00%
どちらともいえない	46.67%	55.56%	71.43%
やや不適切である	0.00%	0.00%	0.00%
不適切である	40.00%	11.11%	28.57%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．今回の特徴は，「どちらともいえない」が 71% と大きく増加している点である．この結果は，GPA の意義や有用性が学生に対してうまく伝えられていないことを示唆している可能性がある.

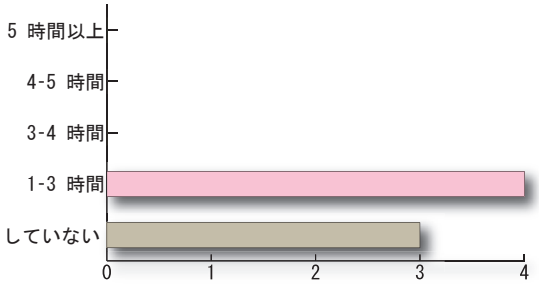
今後の対応

重要なことは，GPA が単なる成績表システムではなく，自己の成績の管理システムであるという点を学生に理解してもらうことが重要である．今後とも，履修指導等を通じて，この点を学生に理解してもらうよう努力していきたい．また，学生の能力を適切に測定できる尺度と成績の評価基準について継続的に検討していきたい.

質問項目 7：講義の予習・復習・宿題にかける時間以外に，公認会計士試験のための自主学習には 1 日平均何時間くらいかけていますか .

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
5 時間以上	33.33%	11.11%	0.00%
4-5 時間	0.00%	0.00%	0.00%
3-4 時間	26.67%	0.00%	0.00%
1-3 時間	33.33%	44.44%	57.14%
していない	6.67%	44.44%	42.86%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．今回の結果も前回と同様に，公認会計士試験のための特別の学習はしていないことが分かる．ただし，今回の結果は少ないサンプルから得られたものであり，この結果が学生全体の傾向を示しているかどうか判断するのは難しい．

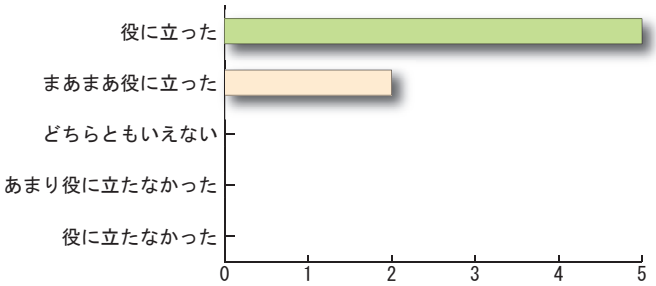
今後の対応

公認会計士試験の準備状況は学生によって異なるものと考えられる．学生がどのような受験対策を行っているかについては，後期開始時に行われる履修相談を通じて把握していきたい．

質問項目 8：会計大学院では，学生への連絡システムとして e-mail を用いていますが，この連絡システムは役に立ちましたか .

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
役に立った	40.00%	55.56%	71.43%
まあまあ役に立った	46.67%	22.22%	28.57%
どちらともいえない	0.00%	11.11%	0.00%
あまり役に立たなかった	13.33%	11.11%	0.00%
役に立たなかった	0.00%	0.00%	0.00%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．今回は全ての学生が「役に立った」または「まあまあ役に立った」と回答している．この結果は，サンプル数は少ないものの，本会計大学院で利用している e-mail による連絡システムがうまく機能しているものと評価できる．

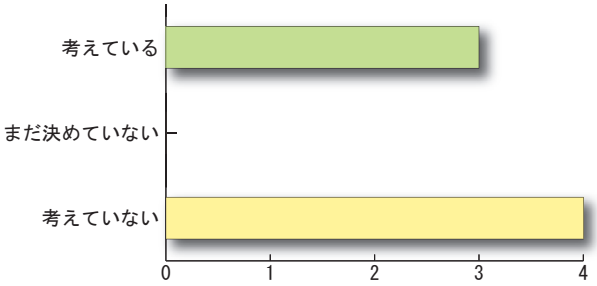
今後の対応

今後についても，e-mail や会計大学院ＨＰを通じて学生に必要かつ有用な情報を提供していきたいと考えている．

質問項目 9：在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
考えている	66.67%	55.56%	42.86%
まだ決めていない	13.33%	11.11%	0.00%
考えていない	20.00%	33.33%	57.14%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．これまでの結果と比較して，考えていないと回答する学生が半数以上いるという点が特徴的である．これは，回答した学生の多くが会計大学院で十分な知識を身につけた上で受験に臨むという傾向が強くなってきたことを示唆している．

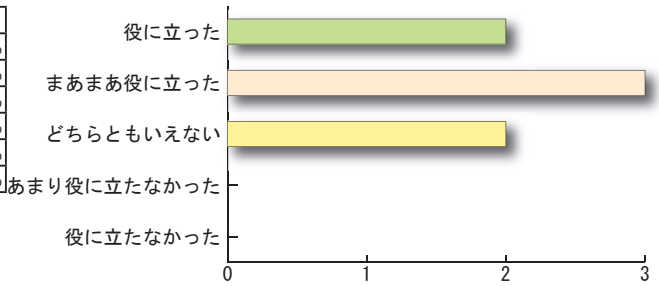
今後の対応

本大学院の教育は，課程を修了した時点での受験を前提にカリキュラムが組まれている．今後とも，在学中に十分な学習が行えるような講義と学習環境を提供していきたい．

質問項目 10：本年 4 月に公認会計士短答式試験の免除手続きに関する説明会を行いましたが，この説明会は免除申請手続きを理解する上で役立ちましたか？

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
役に立った			28.57%
まあまあ役に立った			42.86%
どちらともいえない			28.57%
あまり役に立たなかった			0.00%
役に立たなかった			0.00%
合計			100.00%



分析と所見

この質問項目は，今回初めて行ったものである．本会計大学院は開設されてから 2 年目に入り，2007 年 3 月には第 1 期の修了生を社会に送り出す予定である．修了生の多くは，公認会計士試験を受験するものと考えられ，その際，会計大学院を修了することによって得られる短答式試験 3 科目の免除を有効に活用していくものと考えられる．この科目免除を受けるためには，公認会計士・監査審査会への申請が必要であり．今回，10 月 2 日に申請手続きに関する説明会を行った．

今回のアンケート結果では，約 7 割の学生が，この説明会を有効であったと評価しており，一応の目的は達していると考えられる．

今後の対応

公認会計士・監査審査会への申請は，在学中に 2 回行う必要がある．今後とも適切な時期に説明会を開催していきたいと考えている．

3．3．自己評価と今後の課題

前回の報告では，検討すべき課題として以下の３点について述べている．

① 基礎，展開，実践・応用の科目配置について

② セメスター間の科目配置について

③ オフィスアワーと履修指導について

今回の報告では，上記３つの課題についてどのような改善が見られたのか，また，どのような点が問題として残っているのかを自己評価してみたい．

①に関して

質問項目２で述べたように，今回のアンケートでは，学生に科目の分類に関する資料を提供した上でアンケートに回答してもらった結果，「適切である」と「ほぼ適切である」と回答した学生が７割を越えた．回答のサンプルは少ないものの，この結果は，学生が，基礎，展開，実践・応用の科目配置について理解し，本会計大学院の科目配置に満足していることを示唆している．学生が質問の意図を理解できるよう，必要な資料を添付していくという方針で次回以降のアンケートも行っていきたい．

②に関して

セメスター間の科目配置については，前回のアンケートと比較して「適切である」と回答する学生が大幅に増えた．この結果をみれば，今年度本会計大学院が行った前期開講科目と後期開講科目の入れ替えが一定の成果を収めたものと考えることもできる．今後ともカリキュラム全体の構成を考えながら学生の希望も取り入れセメスター間の科目配置を検討していきたい．

一方では，「やや不適切」と回答する学生も４割強存在しており，今後，この回答に対し会計大学院として対応していく必要があると考えている．まず，科目配置のどの部分に学生が不満を感じているのかを明らかにする必要がある．そこで，本年度後期の履修相談において，この点を調査し，対応を検討していきたい．

③に関して

本会計大学院では，これまで履修相談の資料を教員間で情報として共有し，履修指導のあり方を考えてきたが，開設以来この課題について未だ有効な解決策を見つけ出すことはできないでいる．本会計大学院では，きめの細かい履修指導を教育の特色としており，学生と教員がコミュニケーションを行うための重要な手段として履修相談とオフィスアワーを位置づけている．

今後私たちが学生に対しきめの細かい履修指導を行っていくためには，学生が何を求めているのかを再検討する必要がある．本会計大学院には現在約80名の学生が在籍しており，学生が希望する教育サービスは，学生によって異なるものと考えられる．そこで，本年度後期の履修相談において，学生がどのような履修指導を求めているのか，個人ごとにデータを収集し，さらにこれをカリキュラム委員会・ワークショップ委員会で分析し，履修指導とオフィスアワーのあり方を再検討していきたい．

今回行ったアンケートでは，GPA について「どちらともいえない」と回答する学生が大幅に増加している．本会計大学院では，GPA を進級要件や卒業要件に関連づけていないために，学生がこの評価尺度に関心を持たないということも考えられる．GPA は，本会計大学院で履修した科目の総合的な評価指標であり，また，学生自身が自己の理解度を確認しながら学習計画を立てていくために有効な指標と私たちは考えている．このため，本年度後期の履修指導では，この指標に基づき履修計画を立てることが学生自身にとっても有用となることを学生に説明してみたい．

3．4．自由記入欄の意見に対する若干のコメント

最初に，前回のアンケートで回答した点についてコメントする．

① 前回のコメント 1：簿記の通年開講について

本年度は簿記 1 を前期，簿記 2 を後期に開講しました．また，後期の簿記 2 についても，会社法と同時受講ができるよう，皆さんのアンケートの意見を取り入れて，開講時間を変更しました．

② ＴＡについて

TA については，科目担当の教員と意思疎通を図り教育補助を行うようお願いしています．経済学研究科の現状を考えると，博士後期課程の学生の数が少ないために十分な TA を確保するのが難しいという事情もあります．TA の確保という点についても長期的にどのようにしていくか考えてみたいと思います．

③ＨＰにおける資料掲示について

教員より会計大学院の HP へ掲示依頼のあった資料については全て掲示しています．もし，HP の資料掲示について不便な点などがあれば，tuasad@econ.tohoku.ac.jp までお知らせ下さい．

次に，今期のアンケートの自由記入欄に記述された意見のうち，本会計大学院のカリキュラム・教育全般にわたり重要と考えられるものについて若干のコメントを行う，

① HP・e-mail の掲示について

オリエンテーションでも説明したかと思いますが，会計大学院の授業に関する連絡はすべて電子メールを通じて行っています．このため，休講・補講・教室の変更等に関する連絡についてはすべて HP へも掲載していると思います．ただし，教員がメーリングリストを用いて行う担当科目に関する連絡（宿題等の連絡）については，HP へ掲示しておりません．その理由は，これらの連絡もすべて HP へ掲示した場合，HP に情報があふれ，重要な情報が見落とされてしまう可能性があるからです．もし，メールでの連絡をすべて HP に掲載したほうがいいという希望があれば，tuasad@econ.tohoku.ac.jp までお知らせ下さい．

会計大学院は，経済学研究科の一専攻です．このため，経済学研究科（経済経営学専攻・会計専門職専攻）全体に関する連絡（授業料・奨学金等）については，経済学研究科全員に連絡する必要があるため，掲示板に掲示するようにしています．この点はご了解下さい．

②履修相談について

現在，会計大学院ではセメスターごとの履修相談やオフィスアワーの利用について再検討しようと考えています．皆さんがどのような履修指導を希望しているのか意見を集めたいと考えています．具体的には，今期の履修相談でこの点に関して意見を聞きたいと思います．また，院長・副院長に直接意見を述べたい場合には，tuasad@econ.tohoku.ac.jp まで連絡してください．

4.「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4. 1. アンケートの実施状況

2006 年度前期における開講講義数は 40 科目であり，そのうち履修者が 5 名以上の講義（27 科目）と科目担当教員がアンケートを希望した講義（2 科目）についてアンケートが実施された．ただし，「国際会計基準」と「企業開示制度のしくみと実際」は前期開講科目であるが，夏期集中講義として開講されたため以下の表には含めていない．

授業科目名	履修者数	回収
連結財務諸表	44	7
財務会計 1	54	26
財務会計 2	38	31
上級財務会計	32	23
簿記 1	49	10
簿記 3	12	0
管理会計	22	5
上級管理会計	4	0
原価計算 1	67	8
原価計算 3	22	1
監査	27	7
上級監査	26	2
監査計画の編成法 2	25	21
経営管理	13	1
上級経営管理	5	1
マーケティング	11	4
ファイナンシャル・プランニング	6	1
ビジネス・コミュニケーション 1	14	3
ビジネス・コミュニケーション 2	10	1
情報システム管理	7	4
統計学	8	3
証券取引行政	13	9
法人税法	29	29
上級法人税法	10	10
所得税法	21	2
事例研究 (コストマネジメント)	21	4
事例研究 1(監査制度)	7	1
事例研究 1(情報システム管理)	3	3
外書購読 (コストマネジメント)	7	7
合計	607	224

表 1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは，延べ履修者数 607 名に対して 224 名から回答を得た．アンケートの回収率は 36.90% であり，回収率は決して高いとはいえなかった．なお，質問項目 17 は科目担当教員が独自におこなう質問であり，質問項目はすでに取得した資格に関するものなので，アンケートの集計には含めていない．

4．2．アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は，好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため（設問 1 を除く），この数値化によって回答の平均値，中央値，最頻値の算出を行った．その結果は以下の通りである．（前回アンケートの結果については巻末「資料 4」を参照）

項目＼設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	18
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対 試験	キャリア	資格
5	179	205	4	5	23	53	101	143	134	122	99	76	128	91	99	1
4	13	9	4	11	17	118	85	58	58	68	81	75	65	76	62	0
3	10	4	6	15	27	43	29	17	19	22	36	55	23	33	33	12
2	16	2	40	45	38	8	6	5	8	8	4	14	5	13	2	77
1	6	3	50	79	70	2	2	1	5	3	4	4	2	8	5	20
0	0	0	119	67	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	224	223	223	222	222	224	223	224	224	223	224	224	223	221	201	110
平均値	4.53	4.86	0.83	1.27	1.85	3.95	4.24	4.50	4.38	4.34	4.19	3.92	4.40	4.04	4.23	1.99
中央値	5.00	5.00	0.00	1.00	1.00	4.00	4.00	5.00	5.00	5.00	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	2.00
最頻値	5	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2

表 2：アンケートの基本統計量

全体的な分析

- 今回のアンケートは，1・2 年生ともに回答を行っているので，これまでのアンケートと比べて回答数が多くなっている．特に，昨年度も開講された科目（1 年生を対象として開講された科目）の回答数が 143 と全体の 6 割以上を占めており，新入生の意見が比較的強く反映されているものと考えられる．
- これまでのアンケートの質問項目 11（板書・プロジェクターの利用）は，質問項目 9 との関連が強いと考えられたため，今回のアンケートでは質問項目 9 に含めている．
- 講義の評価に関係する質問項目（6 から 16 まで）について前回の結果と比較すると，全ての項目において平均値が増加している．また，2005 年度前期に行われたアンケートと比較しても講義の評価に関係する質問項目（6 から 16 まで）の平均値はすべて増加している．これらの結果から，全体的に見て，本会計大学院の講義は，開設当初と比べて改善がなされているものと評価できる．

質問項目間の相関関係をみるために相関係数の表を作成した．これは以下の通りである．（前回アンケートの結果については巻末「資料 4」を参照）

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	18
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1.00															
2 出席	.09	1.00														
3 予習	-.10	.05	1.00													
4 復習	.06	.08	.35	1.00												
5 宿題	-.01	.14	.40	.30	1.00											
6 理解	.15	.00	.14	-.09	-.11	1.00										
7 難易度	.08	.11	.08	.04	-.04	.28	1.00									
8 教員準備	-.03	.08	.15	.08	.15	.23	.34	1.00								
9 プレゼン	-.08	.03	.21	.10	.09	.19	.42	.47	1.00							
10 教材	-.07	.03	.11	.06	-.03	.30	.36	.52	.46	1.00						
12 評価方法	-.10	.09	.10	.01	.05	.18	.27	.29	.31	.32	1.00					
13 シラバス	-.15	.06	.16	.10	.09	.04	.30	.17	.39	.26	.37	1.00				
14 教員評価	.00	.07	.03	.05	.02	.33	.47	.50	.57	.54	.42	.28	1.00			
15 対試験	.11	.08	-.04	.25	-.05	.15	.37	.33	.16	.40	.27	.18	.34	1.00		
16 キャリア	-.04	.12	.07	.06	.08	.15	.45	.38	.38	.37	.30	.31	.60	.40	1.00	
18 資格	.02	-.12	.14	.19	-.25	.00	-.07	-.03	.05	.05	.09	.06	-.15	-.07	-.27	1.00

表 3：質問項目間の相関係数

全体的な分析

- これまで行ってきたアンケートと同様に，「出席」と「予習」「復習」「宿題」間の相関係数があまり高くない．能動的な学習態度で講義に出席はするが予習復習が十分でないために理解不足となる傾向の存在を示唆している．
- 「予習」「復習」「宿題」間の相関係数は相対的に高く，能動的に学習を行っているものの，各学習を比較的バランスよくこなしていることがうかがえる．
- 「教員評価」と「教員準備」「プレゼン」「教材」間の相関係数は 0.5 以上である．これは学生が教員に対して講義パフォーマンスを期待し，それに基づき評価することを示唆している．多少悲観的な見方をすれば，講義に出席しているだけで自ずと科目内容が理解できる，または，理解したと錯覚するような講義を希望しているものとも解釈できる．

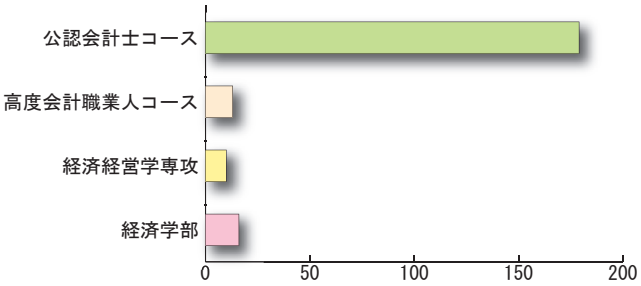
4．3．質問項目ごとの集計結果と所見

回答の回収率が約 36.90% で，その絶対数も十分なものとは言えないため詳細な分析を行うことは難しいが，これまでの調査結果を並記することにより，各質問項目の趨勢に着目しながら分析を進めていく．以下では，それぞれの質問項目について集計結果を示し，所見と今後の対応について述べることにする．なお，アンケートの集計結果については，巻末「付録 5」を参照されたい．

質問項目 1：該当するものを選んでください（受講者属性）

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
公認会計士コース	69.54%	88.41%	82.11%
高度会計職業人コース	9.20%	4.88%	5.96%
経済経営学専攻	14.94%	3.66%	4.59%
経済学部	6.32%	3.05%	7.34%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．受講者の大部分が会計大学院の学生であるという傾向に変化は見られない．前期に開講されている科目は基礎的な科目が多く，これらの科目の一部を学部生も受講可能であるため，今回は経済学部学生のポイントが増加しているものと考えられる．

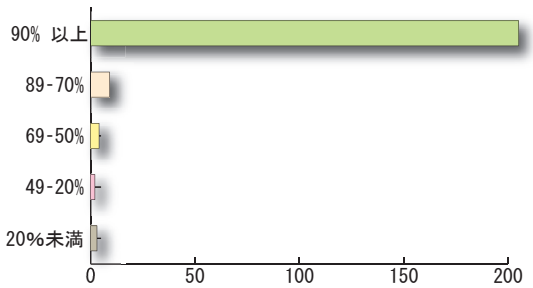
今後の対応

本会計大学院で行われている教育の主たる対象者は，会計大学院の学生であり，実際の受講者も大半が会計大学院の学生である．このため，この項目に対して対応をする必要はないと考える．

質問項目 2：この講義にどのくらい出席しましたか．

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
90% 以上	84.66%	85.28%	91.93%
89-70%	9.66%	7.98%	4.04%
69-50%	3.41%	1.84%	1.79%
49-20%	0.57%	1.84%	0.90%
20%未満	1.70%	3.07%	1.35%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．これまでのアンケートと同様に出席率は高く，出席率 7 割以上の学生が 95% 以上となっていることが分かる． 今回の結果では，特に，出席率 9 割以上の学生が 90% を超している点に注目できる．

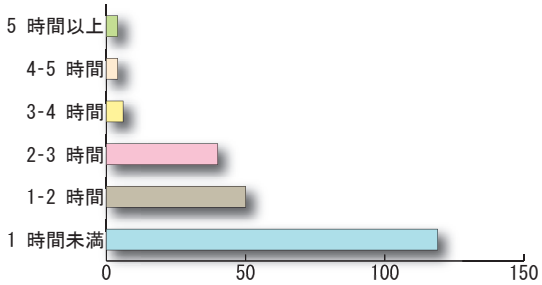
今後の対応

前回の結果と同様に，多くの学生は会計大学院の講義に出席していることが分かる．今後とも高い出席率が維持されていくような講義を私たち教員が提供し続けてきたいと考える．

質問項目 3：この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
5 時間以上	2.86%	2.45%	1.79%
4-5 時間	2.29%	4.29%	1.79%
3-4 時間	7.43%	6.75%	2.69%
2-3 時間	9.71%	12.88%	17.94%
1-2 時間	25.14%	28.22%	22.42%
1 時間未満	52.57%	45.40%	53.36%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている.「予習時間 2-3 時間」が増加傾向にあるのは好ましいことといえる. 一方, 3 時間以上が減少傾向にあり, 1 時間未満が増加している. 特に, 予習時間が 1 時間未満という学生が半数以上おり, この点について分析が必要と考えられる.

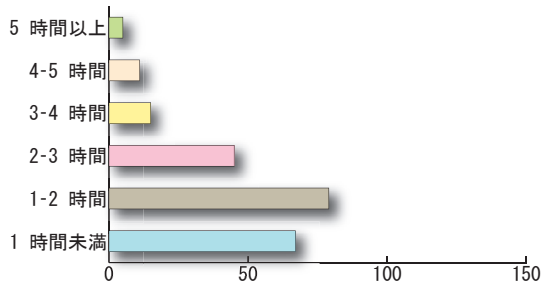
今後の対応

予習を行った上で講義を受講すれば, 講義内容への理解度が深まるものと考えられる. この意味で半数以上の学生の予習時間が 1 時間未満というのは問題があると考えられる. 前回のコメントと同じであるが, 教員は講義の中で予習の重要さを繰り返し説明する必要があるだろう. また, 予習を自然な形で行えるようシラバス・宿題・教材などを工夫することも必要であると考える.

質問項目 4：この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか（宿題にかけた時間を除く時間を記入してください）.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
5 時間以上	7.43%	3.70%	2.25%
4-5 時間	4.00%	4.32%	4.95%
3-4 時間	8.00%	9.88%	6.76%
2-3 時間	23.43%	16.67%	20.27%
1-2 時間	37.14%	38.27%	35.59%
1 時間未満	20.00%	27.16%	30.18%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている. これまでのアンケート同様に, 復習時間が 2 時間未満の学生が 6 割強存在する. 特に, 1 時間未満の学生が約 3 割となっている. この点に関して, 学生が講義内容を理解しているから復習を行わないのか, それ以外の理由なのか分析を行う必要がある.

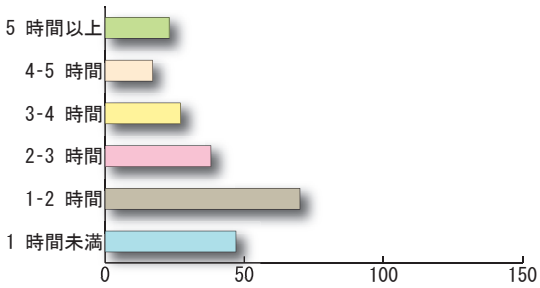
今後の対応

今回のアンケートの結果は, 約 65% の学生が 2 時間未満の復習しかしていないことを示している. 講義内容を理解するためには予習・復習というサイクルで学習を進めていくことが必要と考えられるので, 学生が復習に時間をかけない理由を, 履修指導を通じて調査していきたい.

質問項目 5：この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
5 時間以上	27.17%	13.94%	10.36%
4-5 時間	12.14%	9.70%	7.66%
3-4 時間	13.87%	9.09%	12.16%
2-3 時間	21.39%	21.82%	17.12%
1-2 時間	10.98%	16.97%	31.53%
1 時間未満	14.45%	28.48%	21.17%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．3時間未満の比率の合計は昨年度後期と大差ないが，「2-3 時間」，「1 時間未満」が減少し，「1-2 時間」が大きく増加している．また，3 時間以上の比率は減少傾向にある．宿題の内容が講義の復習であるという点に鑑みれば，質問項目 4・5 を総合的に考えていく必要がある．1-2 時間の復習を行う学生の割合が増加していることから，復習自体にかける時間は減少しているが，宿題にかける時間は増えているので，広い意味での復習にかける時間はそれほど大きな変化はないとも考えられる．

今後の対応

宿題にかける時間が減少傾向にあることの原因として a) 講義の内容を理解しているので，宿題に時間がかからない，b) 宿題を適当にこなしている，という 2 点が考えられるであろう．

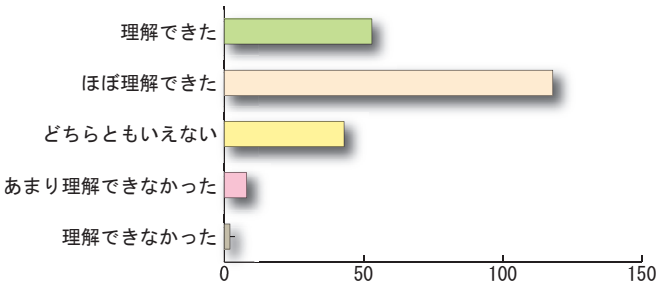
今回得られた結果がどちらの理由によるものか検討していく必要がある．

本会計大学院では，宿題の分量として 4 ～ 5 時間程度を目安としている．これまでのアンケートの結果を見る限り，この目標は達成されていないように思える．後期からの講義では，講義の内容を十分に理解できるような宿題を課すよう工夫していきたい．

質問項目 6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
理解できた	16.95%	15.76%	23.66%
ほぼ理解できた	50.85%	50.91%	52.68%
どちらともいえない	17.51%	19.39%	19.20%
あまり理解できなかった	7.34%	8.48%	3.57%
理解できなかった	7.34%	5.45%	0.89%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．「理解できた」「ほぼ理解できた」が 8 割弱を占め，対応する形で「あまり理解できなかった」「理解できなかった」が減少している．この結果からすれば，これまでと比較して，講義を理解したと感じている学生の割合が増えているものと考えられる．

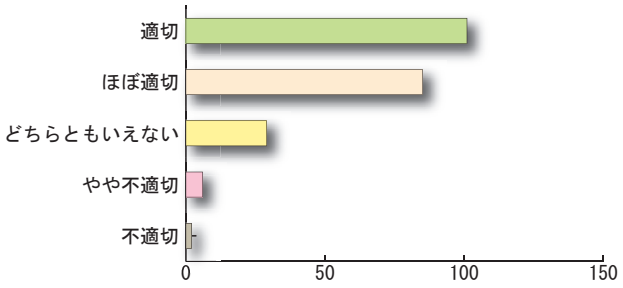
今後の対応

今回は約 8 割の学生が講義内容を理解しているという点で満足すべきものであるが，この結果が成績と結びついているのかについて GPA との関連を検討することにより追跡調査していきたい．

質問項目 7:この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか．（この講義が，基礎，展開，実践・応用科目のどれに属しているかを考慮して回答してください）

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
適切	40.11%	35.76%	45.29%
ほぼ適切	31.07%	32.12%	38.12%
どちらともいえない	15.25%	16.97%	13.00%
やや不適切	6.78%	8.48%	2.69%
不適切	6.78%	6.67%	0.90%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．「適切」「ほぼ適切」が 8 割強を占めており，好ましい状態である．前問の理解度とほぼ同様の推移傾向となっている．今期は,「基礎科目」「展開科目」「実践・応用科目」の全てが開講された．このような状況で，8 割以上の学生が「適切」または「ほぼ適切」と回答しているので，学生の多くが，本会計大学院の講義を大学院レベルの講義として評価していると考えられる．

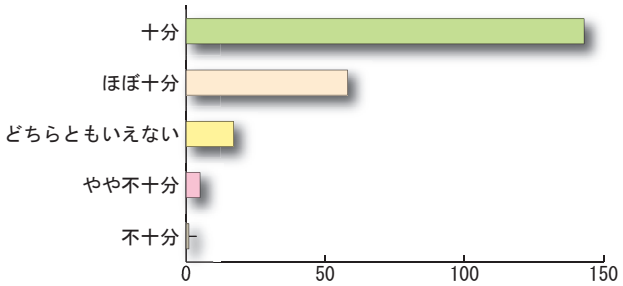
今後の対応

今後とも，多くの学生が大学院レベルの講義として満足するような講義を提供していきたいと考える．

質問項目 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
十分	53.67%	50.30%	63.84%
ほぼ十分	23.16%	29.70%	25.89%
どちらともいえない	11.30%	12.73%	7.59%
やや不十分	6.21%	2.42%	2.23%
不十分	5.65%	4.85%	0.45%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．約 9 割の学生が「十分」「ほぼ十分」と回答していることは特筆すべきことであるが，それ以上に「不十分」と回答した者がほとんどいないことは評価されるべきものである．

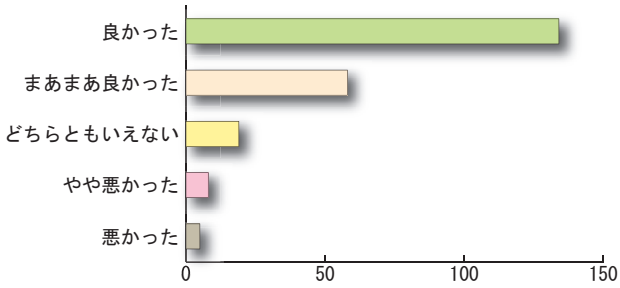
今後の対応

この結果は約 9 割の学生が，教員の講義に対する準備について満足していることを示している．私たち教員は，今後ともこのような評価が得られるよう努力していきたい．

質問項目 9：教員の説明や声など，授業でのプレゼンテーションは良かったですか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
良かった	55.68%	42.42%	59.82%
まあまあ良かった	21.59%	28.48%	25.89%
どちらともいえない	9.66%	13.94%	8.48%
やや悪かった	7.39%	5.45%	3.57%
悪かった	5.68%	9.70%	2.23%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている.「良かった」・「まあまあ良かった」が増加し（特に，6 割弱の学生が「良かった」と評価している），「やや悪かった」「悪かった」が減少しているので，教員のプレゼンテーションに改善が見られたものと考えられる．また，「どちらともいえない」が大きく減少していることも好ましい傾向といえる.

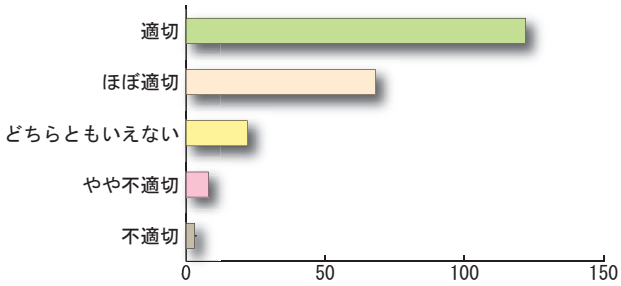
今後の対応

この結果は，約 85% の学生が教員のプレゼンテーションに満足していることを示している．私たち教員は，今後ともこのような評価が得られるよう努力していきたい.

質問項目 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
適切	46.02%	46.34%	54.71%
ほぼ適切	25.00%	28.66%	30.49%
どちらともいえない	14.77%	13.41%	9.87%
やや不適切	6.25%	4.27%	3.59%
不適切	7.95%	7.32%	1.35%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．相関係数からも分かるように，前掲 2 問と同じ講義内容・進行に関するものゆえ，同様の好ましい回答傾向になっている.

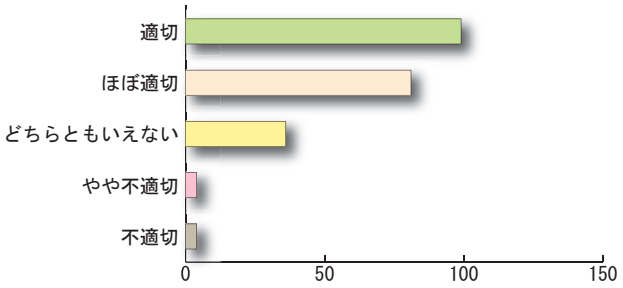
今後の対応

この結果は，約 8 割の学生が，講義で用いられたテキスト・参考書・プリントについて満足していることを示している．今後とも，私たち教員は，適切と思われるテキストや参考書を選び，講義の理解に役立つ資料を準備・作成していきたいと考えている.

質問項目 12：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
適切	40.11%	35.37%	44.20%
ほぼ適切	26.55%	35.98%	36.16%
どちらともいえない	19.77%	15.24%	16.07%
やや不適切	6.21%	8.54%	1.79%
不適切	7.34%	4.88%	1.79%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．8 割の学生が「適切」「ほぼ適切」と回答し，昨年度から改善傾向にある．ただし，成績評価という大学教育の最もクリティカルな部分に関係する事項で，「どちらともいえない」・「やや不適切」・「不適切」と回答した学生が 2 割弱存在するという点については，今後検討すべき課題と考える．

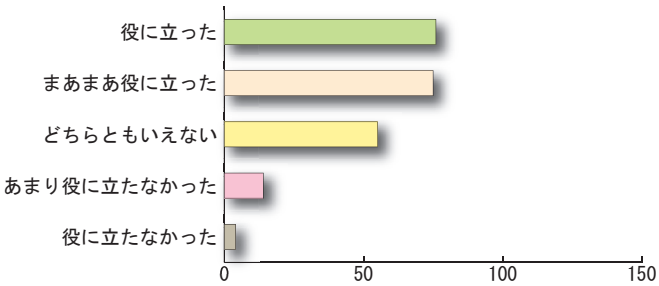
今後の対応

この結果は，約 8 割の学生が成績評価を適切なものと見なしていることを示している．本会計大学院では，成績の評価基準をシラバスに明記し，その基準に基づき成績評価を行っており，今回の結果はその成果の表れとも考えることができる．私たち教員は，この結果に満足せず，学生の能力を適切に測定できる評価基準を見いだしていく努力をすべきであると考える．ただし，「どちらともいえない」と回答した学生の比率が若干増加しており，この意味を検討していく必要があると考えられる．

質問項目 13：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
役に立った	19.32%	24.24%	33.93%
まあまあ役に立った	27.27%	21.82%	33.48%
どちらともいえない	29.55%	32.12%	24.55%
あまり役に立たなかった	14.20%	11.52%	6.25%
役に立たなかった	9.66%	10.30%	1.79%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．「役に立った」・「まあまあ役に立った」のポイントが昨年度と比べると大幅に増えている．これは，昨年度のアンケート結果を受けてのシラバスを改善したことが 1 つの要因とも考えられる．ただし，「役に立った」・「まあまあ役に立った」と回答した学生の比率は 7 割に満たないので，今後さらなる改善が必要と考えられる．

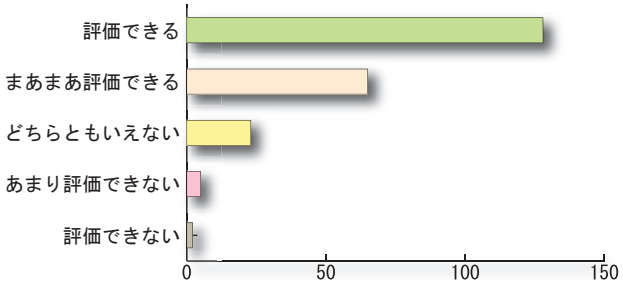
今後の対応

今年度行ったシラバスの改訂が，「役に立った」・「まあまあ役に立った」に関するポイントの増加に関係していると考えられる．講義に役立つシラバスを作成していくために，今年度も大幅なシラバスの改訂を行いたいと考えている．

質問項目 14：総合的に見て，この講義を担当した教員をどう評価しますか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
評価できる	53.67%	44.85%	57.40%
まあまあ評価できる	24.29%	32.12%	29.15%
どちらともいえない	10.17%	10.30%	10.31%
あまり評価できない	5.08%	6.67%	2.24%
評価できない	6.78%	6.06%	0.90%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている.「評価できる」「まあまあ評価できる」の回答が 9 割に迫るという状況は稀有なものであり,私たち教員が学生から高い評価を受けていること意味している. また,「あまり評価できない」・「評価できない」が約 3% である点についても評価できるであろう.

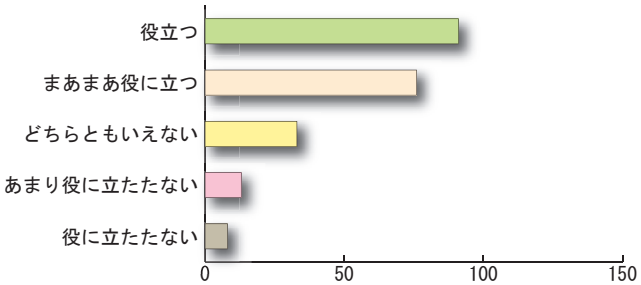
今後の対応

この結果は多くの学生が，会計大学院の教員を評価していることを示している．私たち教員は，今後ともこのような評価が得られるよう努力していきたい.

質問項目 15：この講義は，公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
役立つ	30.29%	32.28%	41.18%
まあまあ役に立つ	24.57%	29.11%	34.39%
どちらともいえない	20.00%	20.25%	14.93%
あまり役に立たたない	8.57%	10.76%	5.88%
役に立たたない	16.57%	7.59%	3.62%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている.「役立つ」「まあまあ役に立つ」の回答が 7 割強を占めていることは，会計大学院の設立趣旨が公認会計士試験の受験だけではないことを考えれば十分なものかもしれないが，一層の改善が期待される.

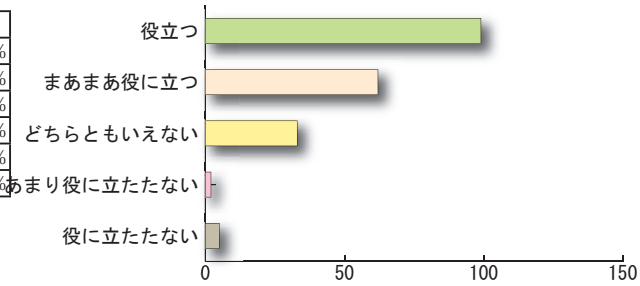
今後の対応

今回の結果は，約 74% の学生が会計大学院における講義が公認会計士試験を受験する上で役立つものと考えていることを示している．会計大学院の目的は，職業会計人として必要とされるものの見方・考え方を教えることであるという点を考慮すれば，この結果は十分満足すべきものと考える．一方，学生が本会計大学院修了後に受験する公認会計士試験に対し強い関心を持っていることも事実であろう．この点を考慮しながら，私たち教員はバランスの取れた教育を行っていく必要があると考える.

質問項目 16：この講義は，公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか.

集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期
役立つ	42.44%	43.40%	49.25%
まあまあ役に立つ	29.07%	28.30%	30.85%
どちらともいえない	19.19%	14.47%	16.42%
あまり役に立たたない	2.91%	7.55%	1.00%
役に立たたない	6.40%	6.29%	2.49%
合計	100.00%	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問はこれまでのアンケートでも行っている．これまでの結果と比較すると「役立つ」・「まあまあ役に立つ」のポイントについて大きな変化は見られず７割強という水準を維持している. ただし, 今回は「あまり役立たない」・「役立たない」のポイントが大幅に減少している点が特徴的である．これは，会計大学院の教育が職業会計人を養成するための教育を行っているということに否定的な見方をする学生が減っていることを示唆している.

今後の対応

この結果は，約 70% の学生が会計大学院の講義を公認会計士となってからのキャリアにおいて役立つものとみなしていることを示している．会計大学院の設立趣旨を考えれば，前問よりも本問において高回答を得るべきであるにもかかわらず,「役立つ」「まあまあ役に立つ」の回答が７割に満たない見方もできる. 私たち教員は，この質問項目に関してより高い評価を得られるよう努力していきたいと考える.

4．4．　自己評価と今後の課題

質問項目２と質問項目６から質問項目 16 までは，これまでのアンケートと比較してポイントが増加しているか，または，総じて高い評価がなされているという意味で大きな問題は無いように思える．これらの項目については，今後とも高い水準の評価が得られるよう，教員一同努力していきたいと考えている．

問題は質問項目３・４・５については，今後対応すべき問題を示唆している．すなわち，講義以外の学習時間をいかに確保していくべきかという問題である．

学生が会計大学院で行われる講義内容を十分に理解していくためには，講義時間以外にも，予習･復習･宿題に費やす時間を適切に配分しながら学習を進めていくことが必要と思われる．本会計大学院では，宿題の分量として，講義当たり４～５時間程度の内容を出題するよう各教員に依頼している．また，学生の多くは宿題を行いながら講義の内容を理解するという形で学習を行っているものと考えられる．これらの点を考慮すると，理想的な学習時間は１科目当たり６時間程度と考えられる（予習１時間，復習と宿題合わせて５時間程度）．今年度後期においては，ワークショップ委員会・カリキュラム委員会が中心となり，この目標が達成されるための具体的方策を検討していきたい．

最後に，アンケートの回収率に触れてこの報告を終えることにする．「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」は会計大学院の学生７名から回収された（回収率 8.97%）．「会計大学院の授業に関するアンケート」については，224 の回答を回収した（回収率 36.90%）．この回収率は高いとは言い難い．次回のアンケートでは，回収率を高めるような方策を考えていきたい．同時に，在学生については次回の調査にできるだけ協力して頂けることを希望する．

付録１：会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2006 年度前期）

このアンケートは，学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラムの改善に役立てることを目的に行うものです．結果は報告書としてとりまとめます．

1. 該当するものを選んでください．
(5) 公認会計士コース　(4) 高度会計職業人コース　(3) 経済経営学専攻　(2) 経済学部

2. 基礎，展開，実践・応用の科目配置は適切だと思いますか．
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

補足説明（分類については，「科目一覧．基礎展開実践 .xls を参照）
基礎科目：科目が属する領域（会計・経済と経営・IT と統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する．
展開科目：基礎科目の理解を前提として，高度な内容を学習する ..
実践・応用科目：基礎科目または応用科目で学んだ内容が，実際にどのように応用されていくのかを学習する．

3. セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか．
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

4. オフィスアワーを利用しましたか．教員に履修相談・質問等を行った回数を書いてください．
(5)5 回以上　(4)4 回または 3 回　(3)　2 回　(2)1 回　(1) 利用しなかった

5. セメスター開始時に行われる履修指導は，学習計画を立てる上で役に立ちましたか．
(5) 役に立った　(4) まあまあ役に立った　(3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たなかった　(1) 役に立たなかった

6. 本大学院では GPA による成績評価を用いていますが，GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか．
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

7. 講義の予習・復習・宿題にかける時間以外に，公認会計士試験のための自主学習には 1 日平均何時間くらいかけていますか．
(5)5 時間以上　(4)4-5 時間　(3)3-4 時間　(2)1-3 時間　(1) していない

8. 会計大学院では，学生への連絡システムとして e-mail とＨＰによる掲示を用いていますが，このシステムは役に立ちましたか.
(5) 役に立った　(4) まあまあ役に立った　(3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たなかった　(1) 役に立たなかった

9. 在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか.
(5) 考えている　(4) まだ決めていない　(3) 考えていない

10. 本年 4 月に公認会計士短答式試験の科目免除手続に関する説明会を行いましたが，この説明会は免除申請手続きを理解する上で役立ちましたか？
(5) 役に立った　(4) まあまあ役に立った　(3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たなかった　(1) 役に立たなかった

11. 今後，新たに開設すべきだと思う科目があれば３つ以内で記入してください．
→自由記入欄に記入して下さい.

－以上です．協力に感謝します．

付録２：会計大学院の授業に関するアンケート（2006 年度前期）

　このアンケートは，会計大学院の授業の改善に学生諸君の意見を生かそうとするものです . 結果は報告書としてとりまとめます .

授業科目名（マークシート用紙に記入）
※注意：この科目が，基礎科目，展開科目，実践・応用科目のどれに該当するか，シラバス等で確認して下さい.

回答者属性
1. 該当するものを選んでください .
(5) 公認会計士コース　(4) 高度会計職業人コース　(3) 経済経営学専攻　(2) 経済学部

科目内容について
2. この講義にどのくらい出席しましたか .
(5)90% 以上　(4)89-70%　(3)69-50%　(2)49-20%　(1)20% 未満

3. この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか .
(5)5 時間以上　(4)4-5 時間　(3)3-4 時間　(2)2-3 時間　(1)2-1 時間　(0)1 時間未満

4. この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか .（宿題にかけた時間を除く時間を記入してください）
(5)5 時間以上　(4)4-5 時間　(3)3-4 時間　(2)2-3 時間　(1)2-1 時間　(0)1 時間未満

5. この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか .
(5)5 時間以上　(4)4-5 時間　(3)3-4 時間　(2)2-3 時間　(1)2-1 時間　(0)1 時間未満

6. この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか .
(5) 理解できた　(4) ほぼ理解できた　(3) どちらともいえない
(2) あまり理解できなかった　(1) 理解できなかった

7. この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか .（この講義が，基礎，展開，実践・応用科目のどれに属しているかを考慮して回答してください . なお当該科目がどの分類に属しているかはアンケート記入用紙に印刷されています .）
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

補足説明（分類については，「科目一覧 . 基礎展開実践 .xls を参照）
基礎科目：科目が属する領域（会計・経済と経営・IT と統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する .
展開科目：基礎科目の理解を前提として，高度な内容を学習する ..
実践・応用科目：基礎科目または応用科目で学んだ内容が，実際にどのように応用されていくのかを学習する .

8. 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？
(5) 十分だった　(4) ほぼ十分だった　(3) どちらともいえない
(2) やや不十分だった　(1) 不十分だった

9. 教員の説明や声など, 授業でのプレゼンテーション（板書・プロジェクター等の利用も含む）は良かったですか .
(5) 良かった　(4) まあまあ良かった　(3) どちらともいえない
(2) やや悪かった　(1) 悪かった

10. テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか .
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

11. 質問項目 9 に含めました . 今回のアンケートでは，記入欄 11 には記入しないで下さい .

12. この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか .
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

13. この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか .
(5) 役に立った　(4) まあまあ役に立った　(3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たなかった　(1) 役に立たなかった

14. 総合的に見て，この講義を担当した教員をどう評価しますか .
(5) 評価できる　(4) まあまあ評価できる　(3) どちらともえいない
(2) あまり評価できない　(1) 評価できない

15. この講義は，公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか.
(5) 役立つ　(4) まあまあ役に立つ　(3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たたない　(1) 役に立たたない

16. この講義は，公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか.
(5) 役立つ　(4) まあまあ役に立つ　(3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たたない　(1) 役に立たたない

17.（自由質問）教員がアンケートの際に行った質問に回答してください.
(5)　(4)　(3)　(2)　(1)

その他質問（自由記入欄に番号を記入して下さい．(6) については具体的に記入して下さい）
18. 既に合格した資格試験等について教えてください .（複数解答可）
(5) 税理士会計科目　(4) 公認会計士短答式　(3) 日商簿記 1 級
(2) 日商簿記 2 級　(1) 日商簿記 3 級　(6) その他

－以上です . 協力に感謝します .

付録３：科目分類表

領域	分野	授業科目	単位数	科目分類
会計領域	財務会計分野	財務諸表	2	基礎
		上級財務諸表	2	展開
		連結財務諸表	2	展開
		財務会計１	2	基礎
		財務会計２	2	基礎
		上級財務会計	2	展開
		財務諸表分析	2	基礎
		上級財務諸表分析	2	展開
		簿記１	2	基礎
		簿記２	2	基礎
		簿記３	2	展開
		公会計	2	展開
		国際会計基準	2	展開
		事例研究（財務諸表）	2	実践・応用
		事例研究（財務諸表分析）	2	実践・応用
		外書講読（財務会計）	2	展開
		現地調査（財務諸表分析）	2	実践・応用
		プロジェクト研究（財務諸表分析）	4	実践・応用
	管理会計分野	管理会計	2	基礎
		上級管理会計	2	展開
		コストマネジメント	2	基礎
		上級コストマネジメント	2	展開
		原価計算１	2	基礎
		原価計算２	2	基礎
		原価計算３	2	展開
		事例研究（管理会計）	2	実践・応用
		事例研究（コストマネジメント）	2	実践・応用
		外書講読（コストマネジメント）	2	展開
		現地調査（管理会計）	2	実践・応用
		プロジェクト研究（管理会計）	4	実践・応用
	監査分野	監査	2	基礎
		上級監査	2	展開
		監査制度	2	基礎
		上級監査制度	2	展開
		監査計画の編成法１	2	基礎
		監査計画の編成法２	2	展開
		内部統制の実務	2	展開
		事例研究１（監査制度）	2	実践・応用
		事例研究２（監査制度）	2	実践・応用
		外書講読（監査）	2	展開
		現地調査（監査）	2	実践・応用
		プロジェクト研究（監査）	4	実践・応用
経済と経営領域	経済と経営基礎分野	ミクロ経済学	2	基礎
		マクロ経済学	2	基礎
		上級マクロ経済学	2	展開
		経営管理	2	基礎
		上級経営管理	2	展開
		経営戦略	2	基礎
		マーケティング	2	展開
		事例研究（経営管理）	2	実践・応用
		外書講読（経営管理）	2	展開
		外書講読（マクロ経済学）	2	展開

領域	分野	授業科目	単位数	科目分類
経済と経営領域	経済と経営基礎分野	ミクロ経済学	2	基礎
		マクロ経済学	2	基礎
		上級マクロ経済学	2	展開
		経営管理	2	基礎
		上級経営管理	2	展開
		経営戦略	2	基礎
		マーケティング	2	展開
		事例研究（経営管理）	2	実践・応用
		外書講読（経営管理）	2	展開
		外書講読（マクロ経済学）	2	展開
	ファイナンス分野	金融論	2	展開
		企業開示制度のしくみと実際	2	展開
		企業ファイナンスの基礎	2	基礎
		ファイナンシャル・プランニング	2	展開
	国際リテラシー分野	ビジネス・コミュニケーション 1	2	実践・応用
		ビジネス・プレゼンテーション 1	2	実践・応用
		ビジネス・コミュニケーション 2	2	実践・応用
		ビジネス・プレゼンテーション 2	2	実践・応用
		環太平洋経営事情	2	展開
IT と統計領域	IT 戦略分野	企業情報システム	2	基礎
		ビジネス・プロセス	2	展開
		事例研究 1（企業情報システム）	2	実践・応用
		事例研究 2（企業情報システム）	2	実践・応用
		外書講読（企業情報システム）	2	展開
	IT 計画分野	情報システム設計	2	基礎
		情報システム投資	2	展開
		事例研究 1（情報システム設計）	2	実践・応用
		事例研究 2（情報システム設計）	2	実践・応用
	IT 運用分野	情報システム管理	2	基礎
		情報セキュリティ	2	展開
		事例研究 1（情報システム管理）	2	実践・応用
		事例研究 2（情報システム管理）	2	実践・応用
		外書講読（情報システム管理）	2	展開
	統計分野	統計学	2	基礎
		上級統計学	2	展開
		計量経済分析	2	基礎
		上級計量経済分析	2	展開
		事例研究（統計学）	2	実践・応用
		事例研究 1（計量経済分析）	2	実践・応用
		事例研究 2（計量経済分析）	2	実践・応用
		外書講読（統計学）	2	展開
法と倫理領域	企業法分野	証券取引行政	2	基礎
		上級証券取引行政	2	展開
		会社法	2	展開
		法人税法	2	基礎
		上級法人税法	2	展開
		消費税法	2	展開
		所得税法	2	展開
		事例研究 1（証券取引行政）	2	実践・応用
		事例研究 2（証券取引行政）	2	実践・応用
		事例研究（法人税法）	2	実践・応用
		プロジェクト研究（法人税法）	4	実践・応用
	倫理分野	会計職業倫理	2	展開
		ビジネス倫理	2	展開

付録 4：「会計大学院の授業に関するアンケート」の前回の結果

2005 年前期

度数分布表

項目 ＼ 設問	1 属性	2 出席	3 予習	4 復習	5 宿題	6 理解	7 難易度	8 教員準備	9 プレゼン	10 教材	11 板書機材	12 評価方法	13 シラバス	14 教員評価	15 対 試験	16 キャリア
5	121	149	5	13	47	30	71	95	98	81	67	71	34	95	53	73
4	16	17	4	7	21	90	55	41	38	44	53	47	48	43	43	50
3	26	6	13	14	24	31	27	20	17	26	32	35	52	18	35	33
2	11	1	17	41	37	13	12	11	13	11	18	11	25	9	15	5
1	1	3	44	65	19	13	12	10	10	14	7	13	17	12	29	11
0	0	1	92	35	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	175	177	175	175	173	177	177	177	176	176	177	177	176	177	175	172
平均値	4.40	4.72	0.90	1.61	2.80	3.63	3.91	4.13	4.14	3.95	3.88	3.86	3.32	4.13	3.43	3.98
中央値	5.00	5.00	0.00	1.00	3.00	4.00	4.00	5.00	5.00	4.00	4.00	4.00	3.00	5.00	4.00	4.00
最頻値	5	5	0	1	5	4	5	5	5	5	5	5	3	5	5	5

相関係数表

設問	1 属性	2 出席	3 予習	4 復習	5 宿題	6 理解	7 難易度	8 教員準備	9 プレゼン	10 教材	11 板書機材	12 評価方法	13 シラバス	14 教員評価	15 対試験	16 キャリア
1 属性	1.00															
2 出席	.03	1.00														
3 予習	-.05	.11	1.00													
4 復習	-.17	.02	.40	1.00												
5 宿題	.02	.27	.16	.23	1.00											
6 理解	.03	.13	.03	.00	-.05	1.00										
7 難易度	-.07	-.01	.00	.07	-.14	.62	1.00									
8 教員準備	-.05	.01	-.04	.01	-.20	.63	.75	1.00								
9 プレゼン	-.21	.02	-.05	.03	-.07	.51	.67	.69	1.00							
10 教材	-.15	.00	.07	.05	-.18	.62	.68	.64	.64	1.00						
11 板書・機材	-.19	.00	.01	.07	-.07	.49	.71	.68	.75	.64	1.00					
12 評価方法	-.11	-.07	.14	-.03	-.17	.47	.53	.52	.44	.59	.49	1.00				
13 シラバス	-.17	.07	.14	.10	-.05	.47	.57	.43	.49	.56	.46	.47	1.00			
14 教員評価	-.19	.00	-.02	-.04	-.16	.56	.80	.74	.74	.72	.74	.53	.53	1.00		
15 対試験	.02	.10	.06	.19	-.05	.31	.41	.33	.32	.34	.40	.23	.28	.38	1.00	
16 キャリア	.01	-.01	.05	.00	-.11	.53	.62	.56	.58	.61	.60	.47	.50	.67	.53	1.00

2005 年後期

度数分布表

項目＼設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	板書機材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア
5	145	139	4	6	23	26	59	83	70	76	59	58	40	74	51	69
4	8	13	7	7	16	84	53	49	47	47	36	59	36	53	46	45
3	6	3	11	16	15	32	28	21	23	22	42	25	53	17	32	23
2	5	3	21	27	36	14	14	4	9	7	16	14	19	11	17	12
1	1	5	46	62	28	9	11	8	16	12	12	8	17	10	12	10
0	0	1	74	44	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	165	164	163	162	165	165	165	165	165	164	165	164	165	165	158	159
平均値	4.76	4.68	1.04	1.37	1.96	3.63	3.82	4.18	3.88	4.02	3.69	3.88	3.38	4.03	3.68	3.95
中央値	5.00	5.00	1.00	1.00	2.00	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	4.00
最頻値	5	5	0	1	0	4	5	5	5	5	5	4	3	5	5	5

相関係数表

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	板書機材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア
1 属性	1.00															
2 出席	.03	1.00														
3 予習	.01	.09	1.00													
4 復習	-.02	.18	.42	1.00												
5 宿題	-.08	.09	.31	.24	1.00											
6 理解	-.03	.36	.23	.19	.22	1.00										
7 難易度	-.03	.31	.29	.29	.25	.50	1.00									
8 教員準備	-.22	.18	.00	.13	.19	.49	.57	1.00								
9 プレゼン	-.18	.32	.19	.16	.17	.53	.64	.61	1.00							
10 教材	-.14	.28	.14	.19	.17	.50	.72	.62	.66	1.00						
11 板書・機材	-.11	.19	.22	.14	.24	.42	.64	.53	.74	.62	1.00					
12 評価方法	-.19	.18	.18	.17	.31	.46	.52	.62	.50	.56	.53	1.00				
13 シラバス	-.05	.26	.18	.20	.13	.38	.53	.40	.48	.59	.46	.40	1.00			
14 教員評価	-.17	.42	.19	.25	.26	.53	.75	.66	.79	.73	.72	.66	.54	1.00		
15 対試験	-.01	.33	.26	.41	.12	.29	.51	.29	.40	.52	.35	.29	.36	.51	1.00	
16 キャリア	-.04	.38	.26	.28	.23	.42	.70	.46	.65	.73	.56	.49	.51	.73	.61	1.00

付録 5：アンケート集計結果

	選択項目	人数	割合
設問 1			
回答者属性	公認会計士コース	179	82.11%
	高度会計職業人コース	13	5.96%
	経済経営学専攻	10	4.59%
	経済学部	16	7.34%
	合計	218	100.00%
設問 2			
この講義にどのくらい出席しましたか.	90% 以上	205	91.93%
	89-70%	9	4.04%
	69-50%	4	1.79%
	49-20%	2	0.90%
	20%未満	3	1.35%
	合計	223	100.00%
設問 3			
この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか.	5 時間以上	4	1.79%
	4-5 時間	4	1.79%
	3-4 時間	6	2.69%
	2-3 時間	40	17.94%
	1-2 時間	50	22.42%
	1 時間未満	119	53.36%
	合計	223	100.00%
設問 4			
この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか.	5 時間以上	5	2.25%
	4-5 時間	11	4.95%
	3-4 時間	15	6.76%
	2-3 時間	45	20.27%
	1-2 時間	79	35.59%
	1 時間未満	67	30.18%
	合計	222	100.00%
設問 5			
この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか.	5 時間以上	23	10.36%
	4-5 時間	17	7.66%
	3-4 時間	27	12.16%
	2-3 時間	38	17.12%
	1-2 時間	70	31.53%
	1 時間未満	47	21.17%
	合計	222	100.00%
設問 6			
この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか.	理解できた	53	23.66%
	ほぼ理解できた	118	52.68%
	どちらともいえない	43	19.20%
	あまり理解できなかった	8	3.57%
	理解できなかった	2	0.89%
	合計	224	100.00%
設問 7			
この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか.	適切	101	45.29%
	ほぼ適切	85	38.12%
	どちらともいえない	29	13.00%
	やや不適切	6	2.69%
	不適切	2	0.90%
	合計	223	100.00%
設問 8			
教員のこの講義に対する準備は十分でしたか.	十分	143	63.84%
	ほぼ十分	58	25.89%
	どちらともいえない	17	7.59%
	やや不十分	5	2.23%
	不十分	1	0.45%
	合計	224	100.00%

	選択項目	人数	割合
設問 9			
教員の説明や声など，授業でのプレゼンテーションは良かったですか.	良かった	134	59.82%
	まあまあ良かった	58	25.89%
	どちらともいえない	19	8.48%
	やや悪かった	8	3.57%
	悪かった	5	2.23%
	合計	224	100.00%
設問 10			
テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか.	適切	122	54.71%
	ほぼ適切	68	30.49%
	どちらともいえない	22	9.87%
	やや不適切	8	3.59%
	不適切	3	1.35%
	合計	223	100.00%
設問 12			
この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか.	適切	99	44.20%
	ほぼ適切	81	36.16%
	どちらともいえない	36	16.07%
	やや不適切	4	1.79%
	不適切	4	1.79%
	合計	224	100.00%
設問 13			
この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか.	役に立った	76	33.93%
	まあまあ役に立った	75	33.48%
	どちらともいえない	55	24.55%
	あまり役に立たなかった	14	6.25%
	役に立たなかった	4	1.79%
	合計	224	100.00%
設問 14			
総合的に見て，この講義を担当した教員をどう評価しますか.	評価できる	128	57.40%
	まあまあ評価できる	65	29.15%
	どちらともいえない	23	10.31%
	あまり評価できない	5	2.24%
	評価できない	2	0.90%
	合計	223	100.00%
設問 15			
この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか.	役立つ	91	41.18%
	まあまあ役に立つ	76	34.39%
	どちらともいえない	33	14.93%
	あまり役に立たたない	13	5.88%
	役に立たたない	8	3.62%
	合計	221	100.00%
設問 16			
この講義は公認会計士になってからのキャリアに役立つと思いますか.	役立つ	99	49.25%
	まあまあ役に立つ	62	30.85%
	どちらともいえない	33	16.42%
	あまり役に立たたない	2	1.00%
	役に立たたない	5	2.49%
	合計	201	100.00%

注）設問の文言は本来のものと若干異なります .

2006 年度　東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	青木　雅明
委員	伊藤　健
委員	小沢　浩
委員	乙政　正太
委員	榎本　正博

会計大学院アンケート実施報告書　2006 年度前期
2006 年　11 月　　日発行
編集・発行：　東北大学会計大学院ワークショップ委員会